

## ダカールラリーで前人未到の市販車部門6連覇を達成！

トヨタ車体株式会社(本社:刈谷市一里山町 取締役社長:網岡 卓二)のTLC(Team Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY)は、ダカールラリー2011アルゼンチン〜チリ(通称パリダカ)にトヨタ ランドクルーザー200のディーゼル車2台で参戦し、ガソリンクラスを含めた市販車部門において優勝。ダカールラリーで前人未到の市販車部門6連覇を達成しました。

ドライバー/ナビゲーター		クラス* <sup>1</sup> 順位	部門* <sup>2</sup> 順位	総合 順位
1号車	三橋 淳 / アラン・ゲネック <small>みつはし じゅん</small>	1位	1位	12位
2号車	寺田 昌弘 / 田中 幸佑* <sup>3</sup> <small>てらだ まさひろ たなか こうすけ</small>	5位	6位	33位

\* 1 市販車部門ディーゼルクラス

\* 2 市販車部門(ガソリンクラスとディーゼルクラスをあわせたカテゴリー)

\* 3 トヨタ車体従業員で、今回が初めてのダカールラリー挑戦

### 1. 今大会の特徴

南米大陸にて3回目の開催。標高4,500m以上におよぶアンデス山脈越えの険しいルートに加え、世界でもっとも乾燥している地域と言われるチリ北部のアタカマ砂漠に設定されたステージが前大会以上に増加し、刻々と変化するバラエティに富んだ路面に多くの車両が行く手を阻まれました。また、ナビゲーションの難易度も上がり、ミスコースによるタイムロスを喫する車両も多く、大変厳しいラリーとなりました。

### 2. BDFでの挑戦

今大会ではラリー車2台の燃料に当社の活動に賛同して下さった児童・学生の皆様、近隣地域の方々、TLCのスポンサー、従業員の家庭や会社食堂・保養所などから提供いただいた廃食用油を精製したBDF(バイオディーゼル燃料)を使用。チームとしては初の取組みとなるBDF100%での参戦に挑戦しましたが、BDFを運搬・給油する過程で、異物が混入するという事態発生により、一時的にBDFの使用を断念し、軽油での走行に切り替えざるを得ませんでした。これにより全ステージBDF100%での走破は達成できませんでしたが、異物混入原因判明後現地で直ちに対策をとり、BDF使用を再開したことにより、全体の8割以上の区間をBDF100%で走行しました。また、ラリー車で使用しなかったBDFもアシスタントカー等ですべて使い切りました。

### 3. ラリーで得られた成果を市販車へ

市販車部門での6連覇を達成したことで、トヨタ ランドクルーザー200の安全性・信頼性・走破性の高さを証明することができました。

このラリーを走ることで得たノウハウやデータを、今後の車両開発に生かし、より高性能なクルマづくりを目指します。

## 【コメント】

## ◆ダカールラリー参戦の意義を実感 トヨタ車体株式会社 取締役社長 網岡 卓二

ダカールラリー参戦は車両の耐久試験そのものであり、市販車部門での参戦にこだわっていますが、今大会での市販車部門6連覇により、ランドクルーザー200、そしてトヨタ車の高い性能・高い品質を世界に向けて証明できたと思います。

今回のラリーは、BDF100%での挑戦や、新人ドライバー・ナビゲーターへの交替などの課題が課せられる中、勝ち続けることへの周囲からの期待が大変大きなものとなっておりますが、チーム一丸となってそのプレッシャーを克服し、ランドクルーザーの60周年記念という節目の年に見事6連覇を達成してくれました。

このラリーを通じて、従業員、スポンサーの皆様をはじめ応援して頂いている方々との一体感を強く感じる事ができ、明るく大きな元気をもらうことができました。

これまで応援いただいた皆様ならびにスポンサーや関係者の皆様の温かいご支援に改めてお礼を申し上げます。

## (チームスタッフのコメント)

## ◆悲願の勝利を達成 チーム代表 太田 力(トヨタ車体株式会社 執行役員)

今大会は私がチーム代表に就任して、初めての大会でした。ダカールラリーの過酷さを知っていくほどに、不安と緊張を感じましたが、1年間力を合わせて準備をしてきたスタッフのチームワーク、スポンサー各社様からの支援が実を結び、最高の結果が出せたことを大変嬉しく思います。

## ◆チーム力の勝利 チーム監督 森 達人(トヨタ車体株式会社 総務部広報室)

世界一過酷なラリーで、6連覇とランドクルーザー200での連勝を達成できて非常に感激しています。チームのメンバー全員がひとつになれた結果だと思えます。BDF100%燃料で全ステージ走り切れなかったことは残念ですが、8割以上の区間をBDF100%で走った上でこの結果を残すことができたことは大きな成果であると思えます。6連覇という結果に甘んじることなく、今後の課題とも向き合っていきたいと思えます。また、多大なご協力を頂いたスポンサーの方々、そして大きな声援を送ってくれた大勢のファンの皆様に厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

## ◆安定した実力を発揮したランクル 優勝 1号車ドライバー 三橋 淳

TLCメンバーとしては5回目のダカールラリー参戦ですが、これまでで一番安心してハンドルを握ることができました。厳しいルートに多くの車両が行く手を阻まれる中、ランドクルーザー200はしっかり路面を捉え、ゴールまで安心して走りきることができました。また、どんな小さなトラブルにもチームが迅速にフォローしてくれたので、素晴らしいチームワークの勝利とも言えます。ランドクルーザーの歴史の輝かしい1ページを刻めたことに誇りを感じます。

## ◆チーム一丸となつてつかんだ優勝 優勝 1号車ナビゲーター アラン・ゲネック

TLCメンバーとしても、市販車部門への参戦も初めての大会でしたが、素晴らしいチームメンバーに支えられ、何の不安もなくラリーに集中することができました。順調に進むことばかりではありませんでしたが、ドライバー、メカニックと力を合わせて乗り越えることができ、好成績に繋げることができました。このチームで参戦できたことを誇りに思っています。最後まで応援して下さいました皆様、ありがとうございました。



優勝を喜ぶチームメンバー



チリの山岳地帯を走る1号車

## 【ダカールラリー2011アルゼンチン～チリ】

ダカールラリーは1979年より開催され、今回が33回目の大会となりました。クロスカントリーラリーの最高峰とされ、世界一過酷なラリーとして注目されています。政情不安により、2009年大会から舞台をアフリカから南米大陸に移し、今回も引き続き南米アルゼンチン・チリにて開催されました。(主催：A.S.O\*4)。

2011年1月1日にブエノスアイレス(アルゼンチン)をスタートし、北上しながらチリへと渡り、1月16日に再びブエノスアイレスにゴールする計16日間、総走行距離約9,000kmにおよぶ戦い。最大標高4,500m以上のアンデス山脈越えに加え、最大の難所であるチリ北部のアタカマ砂漠のステージが前大会以上に多く設定され、大変過酷な大会となりました。

\*4 A.S.O: Amaury Sport Organisation / アモリー スポーツ オーガニゼーション

## 【参加台数と定義】

部門 (部門の定義)	クラス	参加台数	完走台数	完走率
市販車 (量産車にロールオーバー・大容量燃料タンクなどの「安全に走る」ための装備を追加した車。主要部品の交換が禁止されている)	ガソリン	2	1	50%
	ディーゼル	15	8	53%
		17	9	53%
改造車 (速く走ることを目的に改造を施した車。量産車を改造したものから、ボデーからエンジンまで全ての部品を専用で作ったプロトタイプまで含む)	ガソリン	68	28	41%
	ディーゼル	55	18	33%
		123	46	37%
4 輪		140	55	39%
2 輪		200	108	54%
カミオン(トラック)		67	41	61%
合 計		407	204	50%

## 【過去の成績】

大会名	ダカール 1995-2004	ダカール 2005	ダカール 2006	ダカール 2007	ダカール 2008	ダカール 2009	ダカール 2010	ダカール 2011
使用車両	ランドクルーザー-80('95-'98) ランドクルーザー-100('99-'04)	ランドクルーザー-100			ランドクルーザー-200			
成績	市販車ディーゼルクラス優勝7回	優勝*6	優勝*6	優勝*6	大会 中止	優勝*6	優勝*6	優勝*6
備考	770として参戦*5	2005大会よりトヨタ車体として参戦						

\*5 2004年10月に車両部門がトヨタ車体と事業統合

\*6 ガソリン車を含む市販車部門で今大会も含めて6連覇中

以 上